



運動会全体練習②

今日16日(木)は、運動会全体練習がありました。開閉会式の補足説明や団ごとに分かれて応援合戦の練習を行いました。練習に先立ち、体育委員長の清水さんから「しっかり話している人の方を向いて、各団の応援をしっかりがんばりましょう!」と今日の練習のめあての呼びかけがありました。



今日は強風注意報が出ていて、時折運動場にも強い風が吹き、そのノイズで指示を出しながら練習をするのは大変だったと思います。しかし、応援団の子供たちが大きな声ではきはきと練習を引っ張ってくれたおかげで、全員が集中力を切らすことなく、有意義な時間とすることができました。練習の振り返りで、清水さんが「一回教えてだけでみんなすぐ覚えてくれて、とても熱気が伝わったので、🍅帯西レッドの心が伸びました。」と述べたように、子供たちも運動会に向けて、練習を重ねるごとに、意識が高まってきたようです。

校花ムラサキについて

本校の校花は紫草です。本校ではムラサキと呼んでいます。我々が普通に紫色と呼んでいる紫は、ムラサキの根っこから抽出したもので、ムラサキの根っこの色が、紫だったので、紫色となったのです。天然に得られる「紫色染料」は、高貴な色として大切にされてきました。特に、聖徳太子の制定した冠位十二階の最上位は、深紫(こきむらさき)であり、その後の平安藤原氏を象徴する色となり、豊臣秀吉をはじめとする戦国武将がこの色の服に異常な関心を寄せ、徳川時代は「江戸紫」として一大文化を形成するに至ります。

さらに、ムラサキの根の部分に含まれるシコニンには、外傷、腫瘍、火傷、湿疹等に効果のある漢方薬として処方されてきました。古来より紫で染色された布は肺病を遠ざけると信じられ、最近になってシコニンに細菌感染を抑制する作用があることが確認され、免疫を高める効果についての研究も注目されています。

また、文学的にもムラサキは活躍しています。千数百年もの前のわが国の黎明期の状況や人々の生活を現在に伝える最古の歌集「万葉集」にも登場しています。万葉集は、約4500歌中の実に3分の1に植物名が詠み込まれています。その万葉集の中でもムラサキは16首も登場しています。

しかし、栽培の歴史が長いにも関わらず栽培技術が未だ確立していないため、収穫率は僅か5%程度ともいわれ、温暖化による環境変化に伴い生育数が減少し、絶滅危惧IB類に指定されている貴重な植物です。さらに日本固有の和種のムラサキと西洋ムラサキとの混雑も問題になっています。幸い帯西のムラサキは、正門横に西洋ムラサキ、中庭に和種のムラサキと棲み分けを行って栽培しています。その栽培のコツを担当の牛島教諭は「ムラサキは水をあまり与えないこと、太陽光をあまり浴びさせないことが栽培のコツです。ムラサキ園には遮光シートをかけて、ムラサキが群生していた山間部の様子を再現しています。帯西のムラサキの発芽率は50%を超えています。」と述べています。これからもそんな貴重な校花ムラサキを大切に育てていきたいと思っています。

